

## 審議結果

会 議 名	盛人大学運営委員会第2回委員会
開 催 日 時	令和2年1月30日(木) 14時30分から15時40分
開 催 場 所	川口市立かわぐち市民パートナーステーション会議室3
出 席 者	臼倉委員長、仲川副委員長 中村(勝)委員、加藤委員、中村(茂)委員、廣瀬委員、飯塚委員 川野課長、買田課長補佐、作田主査、本間主事
議 題	1 第2回委員会 (1) 開会 (2) 協議事項 ア 令和2年度受講料について イ 令和3年度以降の運営方法について (3) 報告事項 ア 平成30年度卒業生アンケートについて (4) その他 (5) 閉会
公開／非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	0名
会 議 資 料	資料No.1 平成2年度受講料の算出について 資料No.2 令和3年度以降の盛人大学運営方法について 資料No.3 平成30年度盛人大学卒業生アンケート 資料No.4 平成30年度盛人大学卒業生アンケート集計結果

	資料No.5 平成29年度盛人大学卒業生アンケート集計結果
審 議 経 過	別紙のとおり
そ の 他	—

## 審 議 経 過

### 第2回委員会

#### 1 開会（10時00分）

- ・ 事務局から出席委員数が委員定数の過半数に達しているため、盛人大学運営委員会設要要綱第6条第2項の規定により本委員会が成立している旨を報告した。
- ・ 事務局から本会議の公開と傍聴について説明した。
- ・ 事務局にて会議録署名人を選任した。
- ・ 事務局から配布資料について説明した。

#### 2 議事

##### (1) 協議事項

##### ア 令和2年度受講料について

###### ○委員長

規定により議長を務める。委員の慎重かつ積極的な審議とスムーズな議事進行への協力をお願いします。2 議事（1）協議事項のア 令和2年度盛人大学受講料について事務局の説明を求める。

###### ○事務局

1 ページの「資料1」をご覧いただきたい。盛人大学各コース受講料については、平成27年9月30日に開催した盛人大学運営委員会でご審議いただき、設定に関して基本的な考え方を決定いただいている。その決定内容では、まず、各コースの講師料は、農業コースを除き、20万円を上限とすることとしている。なお、講師料は1単位、1時間につき1万円が上限となる。順番が前後するが（4）のとおり、各コースの次年度講師料を合算し、その額の8割程度を受講料収入で賄うように設定することとしている。また、（2）と（3）にあるように、受講料の設定は3段階、最低受講料設定額は4,500円とすること。ただし、（5）のとおり大幅な値上げにならないよう配慮すること、以上の5項目で

ある。以上の原則に基づき、設定した案が一番下の3表である。令和2年度農業体験コース受講料については、昨年11月26日の第1回盛人大学運営委員会において、料金を据え置きすることが既に決定されているため、今委員会では農業体験コース以外の8コースの受講料について協議いただきたい。なお、事務局案では8コースの受講料は昨年と変動はない。

また、9コース全体の講師料合算額に占める受講料の割合については、案では90.0%となっている。以上を踏まえ、令和2年度の受講料について協議いただきたい。

○委員長

今の説明について、ご意見・質問はあるか。

○委員

昨年度から今年度にかけて農業体験コースの受講料を値上げしたことについて、受講生から何か意見は出ているか。

○事務局

苦情などは特になかった。

○委員長

他に意見がなければ、受講料については事務局案のとおりとする。

○委員

(意見なし)

○委員長

次に協議事項のイ 令和3年度以降の運営方法について事務局の説明を求める。

## イ 令和3年度以降の運営方法について

○事務局

2ページの「資料2」をご覧ください。

以前にも触れたとおり、盛人大学キャンパスの入居する建物については、解体が決まっており、現キャンパスが使用できるのは令和3年3月一杯である。代替となる公共施設や

周辺物件の賃借などを検討してきたが、いずれも定期的・継続的に利用することが難しいため、かわぐち市民パートナーステーションをキャンパスとして使用する他にない状況である。ただし、パートナーステーションも普段から登録団体の利用が多く、特に土曜・日曜に盛人大学各コースの講座を新たに組み入れることは困難な状況である。そのため、現在休館としている月曜日を盛人大学事業専用開放することを提案し、運営方法の詳細については、今回3つの案を事務局として提示する。

「資料2」の各案だが、実施するコース数が大きな相違点となっている。ここで農業体験コースについては、西立野の農地での実習がほとんどであり、従来どおりの運営が可能なおことから現状のまま維持することとし、今後の検討対象から除外することを申し添える。

最初に「案1」では従来どおりの8コースを実施する。ただし会場の収容能力から、最大定員を現在の45名から40名に削減する必要がある。

次の「案2」ではコースを統廃合することにより、5コースに再編成している。それにより1コースの定員が最大65名となる。3ページの表はあくまでも一例だが、本市の別部署が行う事業の中に重複・類似したものがあるコースについて、整理を行うものである。

最後の「案3」は社会貢献という盛人大学の原点に立ち返り、それに関係する各コースの講座を1コースに集約したものである。65名定員のクラスが2クラスで、午前・午後に別れ、同じ講義を受ける形式である。

事務局案の説明については以上である。

#### ○委員長

各事務局案について、もう少し詳細な説明を求める。

#### ○事務局

補足すると、「案1」についてはコースの内容は現状を維持し、定員を施設の規模に合わせて実施する方法である。

「案2」については、一例を挙げると本市の長寿支援課では健康づくりに関する講座を開催しており、盛人大学のコースと類似性がある。そのような他課の事業で代替可能なコース

を整理し、それ以外の独自のコースを存続させるのが「案2」であるが、会場の都合により定員調整はやはり必要となる。

「案3」については、学旨の精神である「社会貢献活動を行う人材の育成」に特化して、各コースから、社会貢献に関する講座を1コースに集約したものである。「案3」は現行の各コース講座を元に作成したものであるが飽くまでも例示であり、実質的には方針が決まった段階で、実行委員と協議しながらカリキュラムの内容は決定されていくものと考えている。

#### ○委員

代替施設が見つからないということが、これらの縮小案の理由となっているようだが、施設については如何ほどの検討を行ったのか。

#### ○事務局

まず、周辺の公民館などの社会教育施設について、前任者の時代から担当課である生涯学習課と折衝を重ねてきたが、施設と盛人大学との存在目的の相違を差し置いたとしても、定期的に施設を使用することが大変難しい状況である。複数の施設にまたがり、空き時間にピンポイントで講座を入れることになれば、逆に盛人大学の運営上好ましくないであろうということで、公民館での運営は難しいという結論に至った。

同様に市民生活部の所管であるコミュニティセンターについても、既存の利用者がおり、定期的な利用は困難な状況である。

また以前に委員より、周辺地区のまちづくりの観点からも、盛人大学はこの地に必要ではないかという意見をいただいた。個別に物件を探したわけではないが、委員らの助言を参考にし、民間の物件を賃借することを検討した結果、恒常的に年額一千万円程度の賃借料が必要となることから、民間物件の賃借は難しいとの結論に至った。

また、委員からも情報提供のあった並木三丁目の青少年センターについて、担当課に確認したところ、廃止時期には達しておらず向こう数年は青少年センターとして使用すると回答であり、移転先の候補とは成り得なかった。

以上のように、相応の時間を費やし検討を行ったが、複数の施設で散発的に講義を行うことは運営の上で困難であり、受講者にとっても不便であるため、パートナーステーションを会場として継続的に使用することを提案する次第である。

○委員

盛人大学を開校当初の状態に戻せば、規模は小さくともそれなりに運営できると思うがいかがだろうか。

○委員

規模を縮小するという事は、各コースの定員を減らすということか、それともコースを整理するという事か。

○委員

両方である。定員を減らせば、収入も当然減るので講師料が払えなくなる。講師料を減額してもよいかもしれないが、コースそのものを減らせば、そのような問題は多少回避できるのではないか。そういう意味では、この中では案2が一番適当に思えるが、創立に係わった委員の意見はいかがか。

○委員

最初は社会教養コースから始まり、カウンセリング入門、農業体験と続き、キャンパス新設に伴い残りのコースが加わった。盛人大学は「色々なことを学びたい」という当時の盛人世代の学習意欲を吸収するべく成立したが、後に社会貢献する人材を育成するという目的が学旨により定められ、現在はそれに則ったコース編成となっている。創立に係わった者としては、社会教養コースが整理されるのは寂しい気もするが、実際に地域の中で何が求められているかをよく考え、整理統合することは必要かと考える。

また、国際コースが非常に活発に活動している印象を受ける。市内には中国などの近隣諸国に加え、クルド人なども多く、多様化が進んでいることから、国際コースは盛人大学から外せないものとする。外来者と既存住民が共生し楽しく過ごせるような場所を、国際コースを通して提供できれば良いと思うし、国際コースは盛人大学には不可欠だと思う。

地域デザインコースについては、日米の地域デザインの捉え方に乖離があり、日本では自分達の生活圏内という狭義のデザインにとどまっている。川口全体を俯瞰するような広い視野も必要かと思われる。

心理カウンセリング入門コースについては、街づくりには一見関係ないようにも見えるが、人が街を作るという観点から非常に大事であり、存続させてほしいと考える。

逆に個人的見解だが、ボランティア入門コースは盛人大学に敢えて必要ないのではないかと考える。こちらからはボランティアの手法や実践例をいくつか紹介する程度にとどめ、色々なことを経験し、ボランティアとは何かということを感じとってもらい、自ら気付いて進んでいければよい。実際に行動することを、どのように伝えていくかが大切だと思う。日本ではサービスを無償で提供することがボランティアだと思われているが、世界においては非常識である。元来は医療などの専門的サービスを実費程度で提供することを意味する。日本的なボランティアの良し悪しは別として、ボランティアの在り方を考えていかないと、ボランティアそのものが育たなくなってしまう。

盛人大学で学んだ人々が、街で活躍する手助けとなるようなコース編成を望む。

○委員

本日中に決定しなければならないのか。

○事務局

本日は難しいと考えるので、一旦お持ち帰りいただき、意見などあれば事務局あてお寄せいただきたい。

○委員

そうではなく、意見は皆で言い合うことが必要ではないか。

○事務局

当然、意見をいただいた後、運営委員会の場でフィードバックしていきたい。

○委員

整理統合は止むを得ないと思うので、どうしたら継続していけるか、予算にも照らして考え



ていかねばならない。

○委員

盛人大学実行委員に最終的に説明しなければいけないことを考えると、いつの運営委員会で最終方針を決定するのか概略だけでも今決めておいた方がよいと思う。

○委員

今年の秋にはカリキュラムの編成が必要になる。そう考えると、夏までにはコース編成を決定する必要がある。

○事務局

年度明け早々にでも委員会を開催できればと考えている。

○委員

出来るだけ早い時期に開催してもらいたい。

○事務局

事務局としては、案1のようにコース数を減らさない方向で進められれば、実行委員の理解も得やすいと考えている。定員を減らすと言っても、コースにつき5人程度の減少なので、それほど予算を圧迫しないだろうと推測する。

○委員

問題はおそらく曜日ではないか。

○事務局

ご指摘のとおり、その曜日にどれだけの実行委員に協力いただけるか、そして一年を通して運営していけるのかを、今後の実行委員会において確認していく必要がある。

○委員

熱意をもって運営に携わっている実行委員に対して、理論だけをもって説得しても、ことは上手く運ばないだろう。激変緩和措置として案1を採用するのも一つの手段かもしれない。案2のように「他事業で代替可能なコース」を整理するとなれば、どこを指摘されても回答できるような細かい説明が求められる。

また、商店街の空店舗の活用が街の活性化につながることは、今や定説になっているが、空店舗活用の検討は行っているか。

○事務局

仮に適当な空店舗があったとしても、賃借料が発生するので、それがネックとなっている。

○委員

現在空きがあるのは2階より上階の店舗や事務所である。40人程度を収容できる教室スタイルのものが作れるかという点、賃料の問題などで難しいかを考える。

○委員

商店から全面的に協力をとりつけることで教室を確保できないか。

○委員長

個々の店舗は商店会ではなく個人の所有なので、それは難しい。

○委員

それなら、全コース一律というのではなく、コースごとに柔軟に対処できないものか。

○委員

設立当初ボランティアだけで運営していた時代には、どこでも開講できたが、今は行政の力を借り、事務局から人員も出してもらっている。民間との管理などの折衝も、設立当初の状況とは大きく異なる。行政に大きく依存している現状を鑑みると、散発的にあちこちで開講するのは現実的には難しいと思う。核となる場所がないと、事務局としてもコントロールが難しいのではないだろうか。

○委員

西川口駅や川口駅の周辺でという条件にこだわらなければ、鳩ヶ谷庁舎の会議室などは十分に空きがあるのではないか。

○委員長

鳩ヶ谷庁舎も予約で大半埋められており、大きな会議室となるとなお難しい。

○委員

新市庁舎竣工後に旧庁舎を利用するのも可能性として考えられる。

○委員

現キャンパス解体後、その土地の利用はどうなるのか。

○事務局

都市整備公団住宅の建替えである。並木保育所は継続して入居できるが、盛人大学は元々の権利が無かった上に、稼働が週末に偏ることもあり、年間を通しての場所の提供が受けられなかった。

○委員

運営委員会で大枠を決め、それを実行委員会に下ろすという流れでは、実行委員の間で月曜開催にコンセンサスを得られるか疑問である。早い段階で実行委員の声も反映させないと、運営委員会としても良い判断はできない。

○委員

各コースの実行委員に、何曜日にどういう方法なら出来るかと聞いてしまうと、それぞれ際限が無いのではないか。取壊しによる不可抗力で、月曜しか空きがないという筋道を立てて協力を求めていく方がよいように思うが、委員長としてはいかがか。

○委員長

実際に使用できる曜日は月曜だけという結論があるので、その条件でどう運営していくかを話していくしかないと考える。

○委員

それが一番現実的かと思う。根本の問題は運営委員会の中でよく議論した方がよい。

○委員

曜日の問題はさることながら、午前中の講座に出られる受講者がどれだけいるのか。色々な稽古事では午前中の講座にはほとんど人が集まらなないと聞いている。可能であれば午後と夜間の二部制も検討してもらいたい。

○事務局

元々休館のところを開けるので、時間の調整は可能かと思う。

○委員

極端な話、午前中は閉館で問題はない。職員が夜勤のようなシフトで対応できないか検討  
いただきたい。

○委員

パートナーステーションは通常何時まで開館しているのか

○委員

午後9時までである。

○委員

パートナーステーションで月曜限定の開催という前提は動かしようがないだろうが、しっ  
かりと理論武装して、数回に分けて実行委員会で説明してから、細かい時間帯を決めていくと  
いうストーリーを作った方がよい。休館の場所を専用で使わせてもらえるということは、恵  
まれていると言えるし、きっと納得してくれるのではないか。ただ、月曜日に受講生や実行委  
員をどれだけ集められるかという不安はある。

○事務局

受講生の動向は実際に募集してみないとわからないので不安はある。

○委員

現役で働いている方も対象であることを考えると、夕方や夜間の時間帯なら参加したいと  
いう方も出てくる可能性はある。

○事務局

それでは、再度事務局から実現可能な方法をいくつか提案していきたい。

○委員

2月の実行委員会では、本委員会においてこの問題を語り始めたという報告だけはしておい  
たほうがよいだろう。

○委員

例えばボランティア入門コースはこのところ定員割れが続いている。講座として必要なかどうかを考える時期なのかもしれない。

○委員

近年はできるだけ長く仕事を続けようという流れになっているので、65歳以上でも日常は忙しい方が増えているのかもしれない。

○委員

夏までには決定しないといけないので、運営委員会の大まかなスケジュールを決めておかねばならない。

○委員

その際には他課の事業と重複しているものの提示もお願いしたい。国際コースの話であったように、市の現状に見合うような講義の設定ができればいい。

○委員

実行委員会での討議の結果を運営委員会に、再び実行委員会にというように最低1回は委員会間のキャッチボールが必要だ。

○委員

来年度の実行委員会はいつ開催されるのか。

○事務局

例年は4月の第3週の土曜日である。説明は早い方がよいと思うので、2月の実行委員会でさわりの説明を行い、3月中にその結果を運営委員会に上げるようにしたい。

○委員

実行委員会では、きちんと時間をかけて検討した結果であるということを示さないと、快く了承されないだろう。

○委員長

月曜以外は本当に不可能なのか。よく精査してもらいたい。

○委員

出来ることなら従来通り職員に月曜は休んでもらい、火曜から金曜の夜間で対応できればよい。

○委員長

講義時間を短縮することはできないのか。

○事務局

こちらで決めた時間に、調整していただくことは出来ると思う。

○委員

例えば、10分の休憩をはさみ、前後半55分ずつというのは可能だと思う。

○事務局

月曜を提案したのは、他の利用者がおらず、専用に使えるという理由からである。

○委員

3月の実行委員会で経過報告をし、その結果を3月以降の運営委員会で検討し、再度実行委員会に諮るという形でいかがか。

○事務局

そのように進めたい。

○委員

3月の実行委員会の資料については、委員長はじめ運営委員にも開催前に配布いただきたい。

○事務局

承知した。

## (2) 報告事項

### ア 平成30年度卒業生アンケートについて

○委員長

(2) 報告事項のア 平成30年度卒業生アンケートについて事務局の説明を求める。

○事務局

5ページの「資料3」をご覧いただきたい。こちらの資料は、平成30年度の盛人大学卒業生を対象に、令和元年12月に実施した社会貢献活動への参加状況に関するアンケートである。

このアンケートは、盛人大学の目的である社会貢献活動を行う人材の育成について、達成度を測るために、平成28年度から実施しているものである。「資料3」が卒業生に配布した調査票、「資料4」がその集計結果である。

集計結果のとおり、平成30年度の卒業生は227名で、このうち146名から回答があり、回収率は64.3%である。

このうち、卒業から本調査票を配布した令和元年12月までの9ヵ月以内に社会貢献活動を行っている方は、設問2のとおり84名で回答者の57.5%、行う予定である方と合わせると101名、69.1%となっている。

なお、設問3以降は、既に社会貢献活動を行っている方のみ回答していただいたものである。盛人大学入学前から社会貢献活動を行っていた受講生が、在学中または卒業後に別の社会貢献活動を始めている場合もあるため、複数回答となっている。参考として7ページに平成29年度卒業生のアンケート結果を添付したので、ご覧いただきたい。

卒業生アンケートについては、今後も継続して実施し、盛人大学の社会的な効果を計測する指標としていきたいと考えている。

○委員長

只今の説明に対し、意見や質問などあるか。

○委員

(意見なし)

### (3) その他

○委員長

事務局から何かあるか。

○事務局

卒業式および入学式の日程は次第に記載されたとおりである。運営委員には改めて書面で通知する。

○委員長

委員からは何かあるか。

○委員

(意見なし)

### 3 閉会 (15時40分)

○事務局

これをもって、第2回盛人大学運営委員会を終了する。

会議の内容については、以上のとおりです。

令和2年3月27日

盛人大学運営委員会委員長

(臼倉委員長署名)

.....

盛人大学運営委員会委員

(加藤委員署名)

.....